

電気通信大学こども食堂2023 実施報告

保科舞¹⁾ 沼澤睦²⁾ 大河原一憲³⁾

- 1) 電気通信大学 大学院 情報理工学研究科 情報学専攻 大河原研究室 修士1年
2) 電気通信大学 II類 計測・制御システムプログラム 学部4年 アメリカンフットボール部 主務
3) 電気通信大学 大学院 情報理工学研究科 情報学専攻 教授 アメリカンフットボール部 監督・顧問

1. はじめに

電気通信大学こども食堂について

「電気通信大学こども食堂」は、電気通信大学アメリカンフットボール部と大河原研究室からなるプロジェクトチームを中心に立ち上げました。2023年度は本プロジェクトを成功させるため、こども食堂かくしょうじ様、NPO 法人ソーシャルイノベーション協奏バンク様、電気通信大学生協といった多くの方々にご支援をいただきました。

新型コロナウイルス感染症拡大の渦中での開催となった前回 2021 年のこども食堂では、こどもたちと一緒に運動して遊んだり、食事をとったりすることができませんでした。感染症対策と両立するアクティビティを考案・企画しましたが実現には至らず、結果として「電気通信大学こども食堂 2021」は科学の楽しさや食事の大切さを伝えるレクチャーの実施や、パンフレット・食材の配布など、従来のこども食堂とは大きく異なった内容での開催となりました。

そして、5 度目の開催となった今年の「電気通信大学こども食堂 2023」では、十分な感染症対策を講じたうえで、こどもと大学生と一緒に遊び、食事を取りました。前々回の「電気通信大学こども食堂 2019」以来 4 年ぶりの実施となる従来の内容での開催でしたが、100 名近くのこどもたちとその保護者の方々にご参加いただき、一緒に身体を動かし、同じご飯を食べて、共に楽しい時間を過ごすことができました。

「電気通信大学こども食堂 2023」は、大学生と運

動や食事を共にして、こどもたちに楽しい思い出を残すことを目的としました。私たちと過ごした思い出が、こどもたちのなりたい姿や進路などといった自分の将来のことを考えるきっかけになればという願いを込めて、大学生 32 名が本プロジェクトの運営に携わりました。

また、大学生にとって、こどもたちや地域の方々に興味を持っていただける、応援していただけることはとてもありがたく、嬉しく思います。実際にイベントに取り組むことで私たち自身も充実感や達成感に満たされ、今後の学生生活のやる気と成長につながりました。

2. 開催にあたって

参加者の募集

本イベントは、小学生を対象に親子合わせて 100 名の参加者を募集しました。また、調布市富士見町の「こども食堂かくしょうじ」にて活動のお手伝いとともに、本プロジェクトの参加呼びかけとチラシの配布を行いました。

こども食堂かくしょうじでのお手伝い

2023 年 8 月、「電気通信大学こども食堂」にご協力いただいている「こども食堂かくしょうじ」へスタッフとしてお手伝いに 2 度参加させていただきました。最中にもご来場の皆様に本イベントにご参加いただけるようお声がけする機会をいただき、多くの方々に「電気通信大学こども食堂」の活動を知っていただくことができました。

かくしょうじでのお手伝いを通して、こどもたちとの接し方や、こども食堂の地域におけるさまざまな役割を学ぶことができました。本プロジェクトの企画を進める中で、あくまでぼんやりとしたイメージで止まっていたこどもたちの姿が、実際にお手伝いに参加することではっきりと具体的なものになり、本イベントの開催がより待ち遠しく感じられました。



こども食堂かくしょうじにて

3. 当日の様子

【開催日時】 2023年9月9日（土）

【開催場所】 電気通信大学

【タイムスケジュール】

- 15:00 受付開始
- 15:15 体育館にてレクリエーション
- 16:30 大学内ウォークラリー
- 17:15 生協食堂にて食事会
- 18:15 終了

イベント概要

イベント当日は約100名の児童および保護者が来場し、大学生や関係者を合わせて約140名が参加しました。プログラムは3部に大きく分かれており、初めは体育館にて身体を動かすレクリエーションを行いました。次に大学内を歩いて回るウォークラリー

ーを実施し、最後に大学生協食堂にて参加者全員で食事をとりました。

受付の開始

当日は電気通信大学の西地区に所在する第一体育館入口にて参加者の受付を行い、2階のアリーナへと案内しました。元気いっぱい、わくわくした様子で階段を駆け上がるこどもたちの姿に、イベントの始まりをあらためて実感しました。

受付を済ませたこどもたちは、アリーナにてアメフト部員とキャッチボールや的当てをしてイベントの開始を待ちました。受付時には緊張していたように見えた子ども、大学生や他の児童と数分間一緒に身体を動かすとすぐに周り打ち解け、だんだんと笑顔が見えてきました。



開始前から全力投球です

開会式とアメフト紹介

開会の挨拶は、アメフト部の主将が務めました。主将の大きな掛け声に、もっと大きな声でこどもたちが応えます。「電気通信大学こども食堂2023」のスタートです。

アメフト紹介では、実際に試合で使用するヘルメットやショルダーパッド（防具）を着用して競技を紹介しました。普段目にする事のないアメフトの道具や、がっしりとした装備の選手に、こどもたちの視線は釘付けでした。



アメフト紹介



ボールの持ち方を伝授

体育館でのレクリエーション

大盛り上がりのアメフト紹介に続いて、レクリエーションが始まりました。アメフトの簡易版であるフラッグフットボールという競技の要素を取り入れた、3種類のゲームを行います。大学生とこどもたちは5つのチームに分かれて、まずはチームごとに準備体操をしました。



準備体操

1つ目のゲームはボール渡しリレーです。フラッグフットボールで使われる楕円型のボールを使い、ボールを味方同士で手渡す「ハンドオフ」の動作を取り入れた遊びです。特殊な形のボールをしっかりと両腕で抱え、向かい合う仲間のもとまで走り、手渡しでボールを渡します。練習をした後、制限時間内に何人に落とさずボールを渡せるかをチームごとに競い合いました。



ボール渡しリレー

2つ目のゲームは1対1のランゲームです。フラッグフットボールでは、アメフトでいうタックルの代わりに、選手の両腰につけたフラッグを取ります。こどもと大学生がフラッグを身につけると、早速フラッグの取り合いが始まり、白熱した様子でした。こどもたちはフラッグを取られないよう、まっすぐではなく斜めやジグザグに走り、相手をかわず工夫をたくさん見せてくれました。

最後には、的当てゲームでチームごとに得点を競い合いました。丸いボールとは異なった飛び方をするボールに苦戦した分、的を打ち抜いた時の喜びは大きいです。こども同士で手を取り合って、飛んだり跳ねたり、歓喜する様子が見られました。



作戦会議中



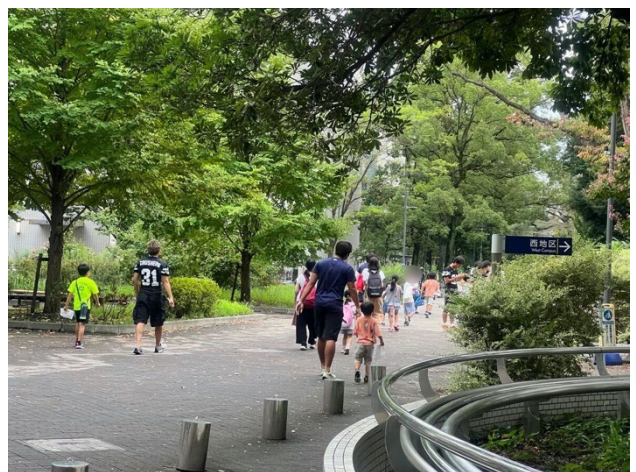
狙いを定めて投げる



上手くかわした！

大学内のウォークラリー

レクリエーションのあとは、ウォークラリーに出発です。大学の東地区に用意した3つのチェックポイントを探しに、構内を歩いて回ります。



構内は自然豊か



手に汗握る戦いです



チームで記念撮影

こどもたちの体力は底知らずで、レクリエーションでたっぷり身体を動かしたにもかかわらず、エンジン全開であたりを駆け巡ります。昼間の蒸し暑さも落ち着き、夕暮れのなかで徐々に「ご飯はまだ?」「お腹すいたー」など、食事を楽しみにする声も聞こえてきました。



仲良しです

大学生協食堂での食事会

ウォークラリーのあとは、お待ちかねの食事会です。電気通信大学生協の協力のもと、150食のカレーライスとサラダが提供されました。こどもたちに混ざるように大学生も着席し、一緒にご飯を食べます。こどもたちと大学生はすっかり仲良くなり、「こっちに来て座って」と、こどもが大学生の手を引く姿もありました。



早く食べたい

アメフト部主将の合図に合わせて、食堂に「いただきます」の声が大きく響き渡ります。たくさん遊んでお腹を空かせた後にみんなで一緒に食べるカレーライスは、より一層美味しく感じたことでしょう。

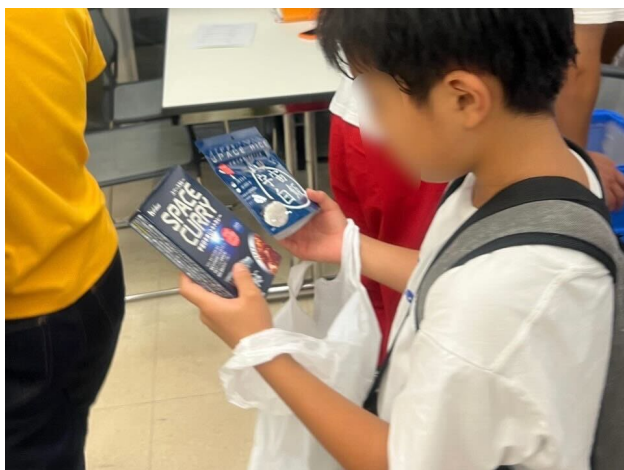


みんなで食べるご飯は美味しい



食後にはビンゴ大会をしました

食事会の最後には、NPO 法人ソーシャルイノベーション協奏バンクのご支援により、お土産の「スペースカレー」と「宇宙白飯」が配られました。スペースカレーは、国際宇宙ステーションにも搭載されたことのある宇宙食です。宇宙飛行士のために開発された特別なカレーを手にしたこどもたちは、どんな味がするんだろう、と興味津々の様子でした。



宇宙食の味が気になります

4. まとめ

最後まで元気いっぱい手を振りながら会場を出る子どもたちを見送り、「電気通信大学こども食堂2023」は終了しました。

たくさんの子どもたちが「楽しかった」「また来たい」と、大学生の目を見て直接気持ちを伝えてくれました。他にも、「新しい友達ができて嬉しかった」「お兄さんお姉さんと遊べて楽しかった」など、学校や学年といった境界を越えてイベントを楽しんでもらえた様子でした。また、保護者の方からも「子どもたちが楽しそうに過ごしていた」「また参加したい」というお声を多くいただきました。

子どもたちと一緒に運動し、一緒に食事をとるという内容での「電気通信大学こども食堂」は2019年以來、4年ぶりの実施となりました。プロジェクトに参加経験のある学生の多くはすでに大学を卒業し、経験者のほとんどいない中での企画・運営は決して容易なことばかりではありませんでした。しかし、壁にぶつかるたびに、学内・学外問わずたくさんの方々にご支援やご協力をいただき、一歩ずつ確実にプロジェクトを進めることができました。

今後も地域の方々に電気通信大学の学生を応援していただけるよう、そして私たちからは学生だからこそ出来ることで皆様に恩返しができるように、何事にも全力で励んでまいります。

本プロジェクトにお力添えいただいた全ての方に心より感謝申し上げます。

また本プロジェクトの実施に関して、2023年10月4日に開催された「第35回調布市福祉大会」にて、調布市社会福祉協議会様より感謝状を頂戴しました。



感謝状をいただきました

【主催】

電気通信大学アメリカンフットボール部

<http://www.crushers.club.uec.ac.jp/>

電気通信大学 大河原研究室

<http://www.ohkawara.lab.uec.ac.jp/>

【協力】

NPO 法人ソーシャルイノベーション協奏バンク

こども食堂かくしょうじ

<https://syokudou.kakushoji.or.jp/>

電気通信大学生協同組合

<https://www.univcoop.jp/uec/index.html>

【後援】

国立大学法人 電気通信大学

<https://www.uec.ac.jp/>

【プロジェクトリーダー】

保科 舞 電気通信大学 大学院

情報理工学研究科 情報学専攻
大河原研究室 修士1年

沼澤 睦 電気通信大学 II 類
計測・制御システムプログラム
学部4年
アメリカンフットボール部主務

本プロジェクトは、アメリカンフットボール部より27名、大河原研究室より5名の大学生・大学院生が中心となって実施いたしました。

